

# With ウィズ

～私たちが私たちに楽しく暮らせる地域づくりを  
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター

音川（全市）・高井（中央）・金森（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・甲陽園）・高田（北部）

〒662-0857 西宮市中前田町1-23 地域共生館ふれぼの内

TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409 kyoseimachi@n-shakyo.jp

## 生活支援コーディネーター かつどうトピックス

### 「西宮市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット西宮）」設立！

いよいよ西宮市社会福祉法人の連絡協議会「ほっとかへんネット」が立ち上がりました。7月24日の設立総会では、分野や業種の壁に横串を刺し、「ほっとかへんネット西宮は地域や住民をほっとかへんなぁ〜!」と言われるような協議会を目指していこうと、参加法人で意思統一が図られました。

この協議会（ほっとかへんネット西宮）は、市内に事業所や施設がある社会福祉法人（現在28法人参加）によって構成、情報交換や事業の協働実施等をとおして地域社会に貢献していく仕組みです。災害時の活動や制度狭間の支援、また福祉学習や人材育成等、目指す活動は多岐にわたりますが、その中でも特に今年度は、施設・事業所間のネットワークづくりの第一歩、情報交換（研修・交流会）から始める予定です。



ここからがスタート！  
新たな法人の参画も  
待っています！！



## 生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

## 工夫がつながぐみんなの広場 ～ぽっかぽかひろば～

こんにちは！お変わりありませんか？

生活支援コーディネーターの牧です。

市内あちこちで「ポッチャ」を楽しむ方が増えていますが、特に瓦木地域では、いち早く取り入れみんなが楽しめる工夫を行ってこられました。

今回は、地域みんなの居場所「ぽっかぽかひろば」、そして「ポッチャ」とおしたつながりづくりの様子をお届けします。

瓦木圏域生活支援コーディネーター：牧

ぽっかぽかひろばは、「人と人、人と地域のつながりをつくること」を目的に、平成20年に瓦木小学校の横で開所。カフェをはじめ、健康づくりや文化体験等さまざまな交流の機会をつくっています。中でも「ポッチャ」は、他地域よりも早く取り入れており、ふらっと立ち寄りられた方も気軽に参加できるスポーツとして親しまれています。

阪神淡路大震災の経験で、「日ごろから地域のつながりが育まれる場があれば…」という思いから立ち上がったぽっかぽかひろばでは、「つながる」きっかけづくりを大切に活動しています。



毎月、カレンダーを発行して、みなさんに情報をお知らせ☆



青葉園Tシャツはユニフォーム。この後はカフェでティータイム♪



### 「みんなが、より楽しめる工夫を…」

取り組み始めた頃、もっと気軽に楽しめるようにと、瓦木地域の皆さんで、「ポッチャ」ボールを手作りされました。転がり方が一つ一つ違うので、毎回アハハ♪と大歓声！四肢に障がいのある方には「障がい者と健常者が同等に楽しめるミラクルボールだ！」と喜んでもらえたそうです。今も、高齢者や初心者の方々に楽しんでもらっているそうです。



↑手作りボール

共 生 の ま ち づ くり 実 践

その⑤  
エプロン



エプロンをつけて  
接客もばっちりの  
カフェ当番！！

時には大学生もスタッフに。  
一緒に座って作業します！

共生のまちづくりを実践する地域の常設拠点として、2016年に誕生した「地域共生館 ふれぼの」そこで生まれてくるエピソードをお届けします！

この春、ふれぼのカフェでは3年間使ったエプロンをリニューアルしました。

これまでのエプロンは、カフェ当番に入る地域活動センターふれぼのに通所する本人さん（障がいのある方）が当番の際につけると肩紐が落ちやすかったのですが、新しいエプロンはそこが改善され、快適です。

このエプロン、スタッフだけでなく、カフェをお手伝いに来てくれる地域の方がつけることもあります。

エプロンを身につけることで役割意識がうまれるとともに仲間意識（チームワーク）も高まってきています。

「エプロン」は『つけた人が“する側”』『つけていない人が“される側”』と、気付かないうちに隔たりが生まれてしまうこともあります。でも、誰がつけるかも含め、上手に活用すると“エプロンがその人自身の役割を生む効果”もあります。

あったかエピソード  
「特別なお手伝い」

通学路に面しているふれぼのカフェ、スタッフが「いってらっしゃい」「おかえり」といつも声かけていると、子どもたちはすっかり顔馴染みになり、家まで我慢できずトイレを借りにくる子、暑くてお水を飲み立ち寄り子もいます。

そんな子どもたち、ふれぼのに来た時は自由に遊んだり、勉強したりしていますが、最近、カフェで「お手伝いしたい!」という子も出てきました。

普段はカフェでお茶を提供したり、お客さんとお話をしたりするのは障がいのあるご本人ですが、時には子どもたちにもお手伝いをお願いし、エプロンをつけてもらうことがあります。

特に館内から大量の出前注文が入った時には大活躍。

エプロンをつけることで“お手伝いモード”のスイッチが入るとともに、障がいのあるスタッフとの距離が近づき、お互いにできることを分担している様子も見られます。

いつでもつけることができるエプロンではないので、その特別感もあるようですよ！



初企画「男のキッチン」。エプロンと三角布をつけて、気合いを入れて調理しました！



みんなで食べるとおいしい!!  
(エプロンつけたままだった...)

トライやるウィークの中学生もエプロンをつけてカフェスタッフになり頑張ります！



ごゆっくりどうぞ!!  
(見られると緊張...)